

## 5 / 6 (ろくぶんのこ)

6月29日

No. 6

藤沢市立長後中学校

## 進路とは「社会に参加する」こと その後

前回、締め切りのことを書きました。中学校を卒業する、ということは、社会に参加することである、という内容でした。そして、今日、締め切りがありました。第一回進路希望調査です。全員提出できたでしょうか？なぜ全員提出が必要か。これも大事なことです。頭に入れておいてください。

①家庭＝本人＝学校で、ちゃんと連絡が届いているのか、を確認する必要がある。

→進路は本人だけの問題ではありません！

②家の人に書いてもらう場合でも「締め切りを守る」のは本人の「責任＝仕事」である。

→人任せの時代はもうすぐ終わる！

ですから、今日、提出できなかった人を昼休みに集めて、①、②の話をもう一度させてもらいました。この時に集まった人は2人。期限内提出者99人(欠席者除く)。ゼロではありませんでしたが、やっぱりみなさんは、ちゃんと話を聞いてくれる集団だなと思いました。これからも提出物を期限内に提出することを頑張ってくれることを願っています。提出物は、提出してこそ提出物ですから。

進路コーナーに配架してある資料(6/29時点)

23日以降に増えた高校です

< 県立高校 >

< 市立高校 >

< 私立高校 >

< 専修学校 >

県立伊志田高校

横浜市立横浜商業高校

山手学院高校

大和商業高等専修学校

## シリーズ：心の支えになる言葉 2

日本の小説家 宮下奈都(みやしたなつ)さんの本から

～ 世界は、私を待っていない。世界は、開かれていないんだ。

私がよじ登って、そこに立たなければ、舞台は私を置いて、回っていただけだ。～

宮下奈都「終わらない歌」

## 解説

読書好きの人はよく分かる話だと思いますが、読書には2つの「効果」があります。

1つは、自分が今まで知らなかったことを知ることができる。想像もしなかったような世界を見ることができる。つまり「体験・経験・発見」としての読書。

もう1つは、自分が今まで何となく思っていたこと、モヤモヤしていたことがはっきりと書いてあって、「そうなんだよ、その通りだよ!」と思える。つまり「共感」の読書。

そして、小説や物語、いや、映画やドラマやアニメや漫画に広げても同じだと思うのですが、良い物語には必ず「そう、私もそう思ってたんだ」という言葉があるものです。それが心に刺さったとき、感動が生まれます。

この言葉も、よく読むと、とても厳しい言葉ですが、みごとにこの世界の真実を言い当てているなあと思います。中学生もいつか大人になる。大人になれば、自分の舞台に立たなければならない。舞台に立つためにはまず準備し、舞台によじ登らなければ人生は始まらないのです。

(文責 進路担当：清川)